

2025年04月 現在

Fujitsu Software

Symfoware Active DB Guard V12a (V12.10.0)

本商品は、Symfoware Server V12aのオプション製品です。

本商品を利用することで、ノーダウン・ロストゼロの災害対策を実現できます。バックアップセンターにより迅速かつ確実に業務再開を行うことができます。

V12よりSymfoware Serverは、従来のデータベースに加えて、OSSであるPostgreSQLをベースに機能強化したデータベースを搭載しています。どちらか一方を選んで使用することができます。

Symfoware Server (Postgres) :

- ・OSSであるPostgreSQLをベースに機能強化したデータベースです。

Symfoware Server (Native) :

- ・富士通独自技術を採用したデータベースです。

本商品は、Symfoware Server Enterprise Extended Edition (Native)および、Symfoware Server Enterprise Edition (Native)に対応します。

- ・ サーバ(Symfoware Server (Native))

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMEQUEST 1000シリーズ / PRIMERGY

- サーバ(Symfoware Server (Native))

Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)

1. システム停止によるビジネスの損害・機会損失を最小化

情報システムセンタが被災した際、待機センタへ業務の切り替えをスピーディに行うことができます。そのため、業務の停止によるビジネスの損害や機会損失を最小に抑えます。

- ・リアルタイムなデータ複製

ストレージのリモートコピー技術により、情報システムセンタのストレージシステムに書き込まれたデータはネットワークを利用してリアルタイムに待機センタに書き込まれます。そのため、リアルタイムでのデータ複製を実現し、通常のファイル転送方式と比較して、情報システムセンタの被災時でも、待機センタはデータロストはほとんど発生せず、業務の停止によるビジネスの損害を最小限に抑えることができます。

- ・データロストと運用コストのを最小限に抑えるログ SHIPPING 技術

ログ SHIPPING 技術(差分ログの送付に関する技術)により、データベースの差分ログから必要な情報のみを取得し、待機センタに送付する差分ログのデータ量を削減しています。そのため、データベースミラーリングと比較して、データ更新量を最大1/8に圧縮することが可能となり、ストレージシステムのディスク容量と回線コストを抑えることができます。

また、転送データ量を削減することで、ネットワークのスループット低下などの影響を抑止し、被災時のデータロストを最小に抑えます。

2. 基幹システムへの高い適応性

基幹システムのような大規模データを扱うシステムや高トラフィックのシステムに Symfoware Active DB Guard を導入しても、顧客業務へ影響をおよぼすことなく運用することができます。

また、ハードウェア障害などが発生し、Symfoware Active DB Guard の運用を継続できない場合も、顧客業務を止めずに、運用を即座に切り離すことができます。

3. システム規模にあわせたスケーラビリティの確保

Symfoware Active DB Guard は、データベースのログ収集を分割し、並列に処理することを可能にするスケーラブルログ運用に合わせて、差分ログの取得を分散させることができるため、高負荷になるシステムへの柔軟な対応ができます。

また、拡張性や高可用性を実現するクラスタシステムにも対応しています。

4. 反映対象外 DSI (Data Structure Instance) の設定

バックアップを行う資源の中から、複製先システムでデータベースへの反映が不要な資源を DSI 単位に指定することで、更新差分ログの反映を行わないようにします。

この設定により、柔軟なデータベース運用ができます。

5. 省力運用の実現

Symfoware Active DB Guard が ETERNUS SF Advanced Copy Manager の制御を行うため、利用者はデータベースの複製運用を意識することなく、運用手順の省力化ができます。

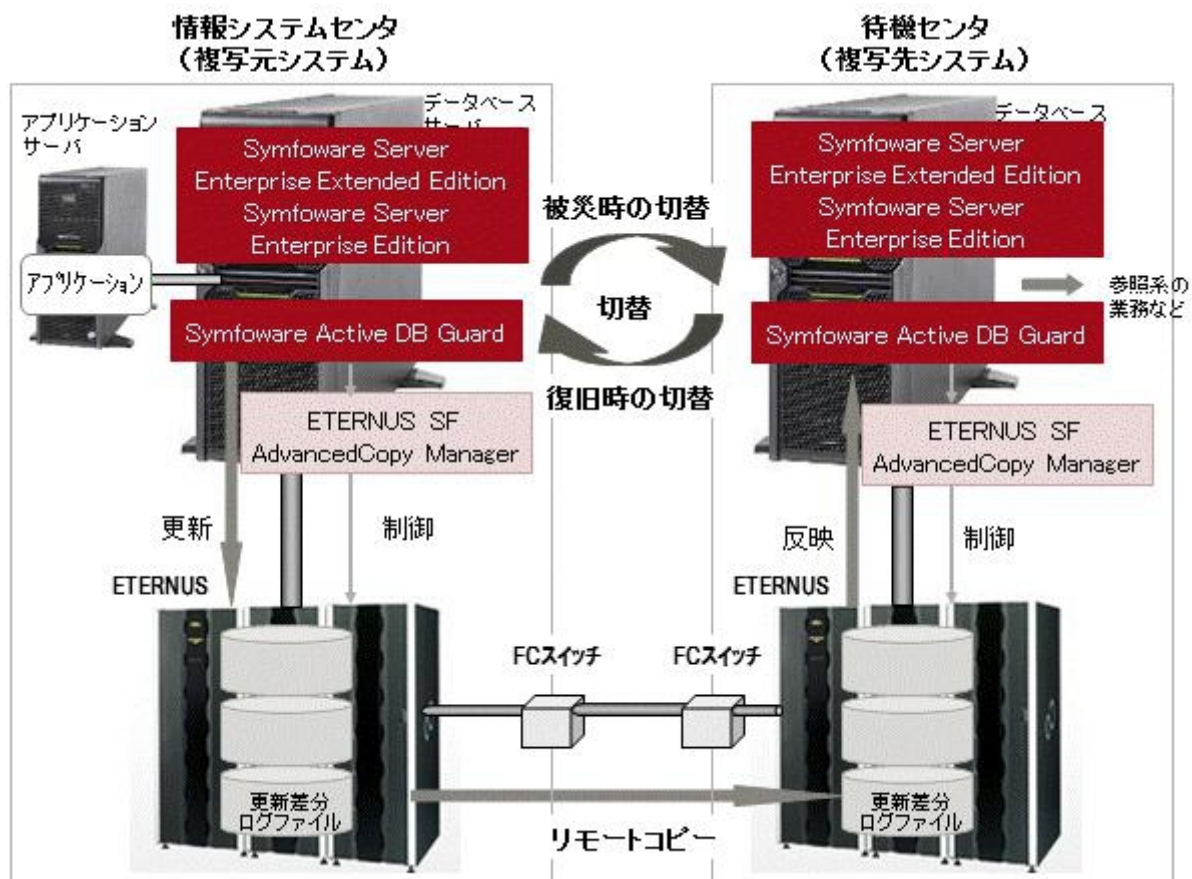
6. 複製先システムの多彩な利用方法

複製先システムを有効に活用できます。有効活用する方法として、以下があります。

- ・定常時センタ切り替えを利用したシステムの保守運用
- ・複製先システムのデータベースを利用した参照系業務
- ・利用者の任意のタイミングでデータベースの静止状態を作成し、参照系のバッチ業務を行う静態データベースの運用

7. 簡易導入

GUI インストーラにより、簡単に標準機能がインストールできます。



V12.9.0からV12.10.0の機能強化項目は、以下のとおりです。

1. 新OS対応

以下のOSに対応します。

- Red Hat Enterprise Linux 9.5

2. Symfoware Server V12.10.0対応

以下のSymfoware Server (Native)に対応します。

- Symfoware Server Enterprise Extended Edition V12a (V12.10.0)
- Symfoware Server Enterprise Edition V12a (V12.10.0)

標準添付品

- ・ オンラインマニュアル
 - ・ Symfoware Server (Native)を参照してください。

【メディア】

- Symfoware Server Enterprise Extended Edition メディアパック(64bit) V12a (V12.10.0)
- Symfoware Server Enterprise Edition メディアパック(64bit) V12a (V12.10.0)

(注) V12.10.0は64bit版メディアパックのみです。

【サブスクリプションライセンス／サポート】

[サブスクリプションライセンス／サポート(月額払い)]

- Symfoware Active DB Guard プロセッサライセンス for Linux (SL&S)

[サブスクリプションライセンス／サポート(まとめ払い)]

- Symfoware Active DB Guard プロセッサライセンス for Linux (SL&S) 7年

1. Symfoware Server V12.10.0のメディアパックについて

本商品のプログラムは、Symfoware Serverのメディアパックに含まれています。ただし、メディアパックには使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックとサブスクリプションライセンス／サポートを同時にご購入ください。

各メディアパックの構成

メディアパック名	構成製品名							
	本体			オプション			同梱	
	EEE	EE	SE	ABC	MC	ADBG	LINK	REP
Symfoware Server Enterprise Extended Edition メディアパック	●	—	—	●	●	●	●	●
Symfoware Server Enterprise Edition メディアパック	—	●	—	●	●	●	●	●
Symfoware Server Standard Edition メディアパック	—	—	●	●	—	—	—	—

●：提供、—：提供なし

EEE：Symfoware Server Enterprise Extended Edition

EE：Symfoware Server Enterprise Edition

SE：Symfoware Server Standard Edition

ABC：Symfoware Server Advanced Backup Controller

MC：Symfoware Server Mirroring Controller

ADBG：Symfoware Active DB Guard

LINK：Linkexpress

REP：Linkexpress Replication option

2. プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおり必要となるライセンスです。

- ・シングルコアプロセッサの場合は、1プロセッサあたり1本の購入が必要です。
- ・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

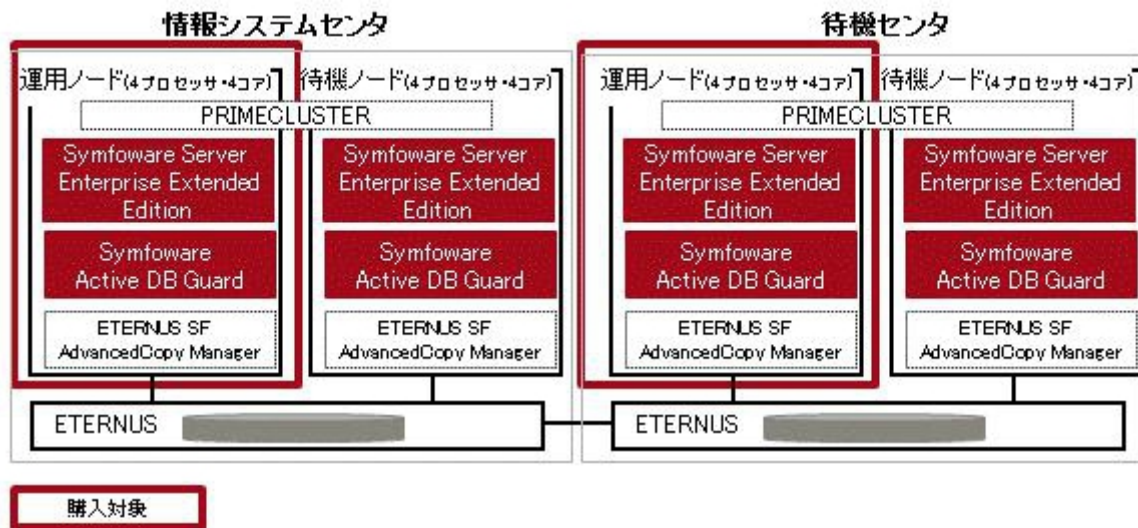
マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）」内、「富士通製ソフトウェアのライセンス体系」を参照ください。

購入にあたっては、情報システムセンタ・待機センタ共にライセンスが必要です。

例)

情報システムセンタ、待機センタのそれぞれに4つのプロセッサを搭載したサーバに適用する場合は、8つのプロセッサライセンスを購入する必要があります。

Symfoware Server (Native)がプロセッサライセンスでもクライアントライセンスでも組み合わせ可能です。



上記図の場合、必要なライセンス数は、以下のようになります。

－コア数の合計：4(プロセッサ数) × 4(コア数) = 16コア

	情報システムセンタ側	待機センタ側
Symfoware Server Enterprise Extended Edition プロセッサライセンス	16コア × (コア係数)	16コア × (コア係数)
Symfoware Active DB Guard プロセッサライセンス	16コア × (コア係数)	16コア × (コア係数)

上記に加え、メディアバックが必要です。

3. サブスクリプションライセンス／サポートでの最新プログラムの提供について

サブスクリプションライセンス／サポート契約の一環として、最新バージョン/レベルのプログラムを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

4. ダウングレード使用（旧バージョン または 旧レベル商品の使用）について

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用（本商品の旧バージョン または 旧レベルを使用）する権利はありません。

対象のバージョン または レベルを使用する場合は、対象のバージョン または レベルに対応したライセンスをご購入ください。

5. クラスタシステムで運用する場合の購入方法

クラスタシステムで運用する場合は、運用ノードに搭載するプロセッサ数1つ分の購入に対して、待機ノードに搭載するプロセッサ数1つ分は購入不要です。待機ノード数が運用ノード数より多くなる構成の場合は、運用ノードに搭載するプロセッサ数のライセンスの他に、待機ノードに搭載するプロセッサ数から運用ノードに搭載するプロセッサ数を差し引いた分のライセンスを購入してください。

6. V9以降の旧商品からのバージョンアップ／レベルアップについて

V9以降の本商品をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、新バージョンを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン商品を改めてご購入頂く必要があります（価格の優遇はございません）のでご注意ください。

なお、「SupportDesk」の詳細については、弊社営業/SEにお問合せください。

7. 購入時の特約事項

サブスクリプションライセンス／サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号または、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法①」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書または、ライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

1. ETERNUSディスクアレイを使用するための必須ソフト

Symfoware Active DB Guardを使用するためには、以下のソフトウェアが必要です。

- ・ Red Hat Enterprise Linux 9の場合

ETERNUS SF AdvancedCopy Manager 16.9以降

- ・ Red Hat Enterprise Linux 8の場合

ETERNUS SF AdvancedCopy Manager 16.8以降

1. 必須ハードウェア

REC (Remote Equivalent Copy) 機能を装備したETERNUS ディスクアレイ

1. Intel64環境での動作について

本商品は、以下のディストリビューションの環境で、64ビットモードで動作します。

- Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)※Red Hat Enterprise Linux 8.2以降をサポート
- Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)

2. Symfoware Server (Native)との組合せについて

本製品は、同一バージョンレベルのSymfoware Server (Native)が必要です。

3. 対応するクラスタシステム

以下のクラスタシステムに対応します。

- PRIMECLUSTER Enterprise Edition 4.6/4.7
- PRIMECLUSTER HA Server 4.6/4.7

運用形態は、Symfoware Server (Native)の運用形態に準じます。

4. 仮想化環境で利用する場合の留意事項

(1) VMwareを利用する場合

以下の機能は、利用できません。

- DR機能
- FT機能
- HA機能

以下の機能は、データベースが停止している場合に利用可能です。

- vMotion機能
- クローニング機能

(2) Linux仮想マシン機能を利用する場合

以下の機能は、データベースが停止している場合に利用可能です。

- ライブマイグレーション機能
- クローニング機能

(3) Hyper-Vを利用する場合

以下の機能は、利用できません。

- ライブマイグレーション機能
- クイックマイグレーション機能
- Hyper-Vレプリカ機能
- インポート/エクスポート機能
- フェールオーバー機能

お客様向けURL

- ・ ソフトウェア：富士通（Symfoware）

Symfoware製品の最新情報を提供しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/middleware/database/symfoware/>

- ・ ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）

価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>

- ・ ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）

「ライセンスについて、くわしく知る」の項で富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>